

西日本4港が計画改訂

物流関係 渋滞抑制や機能強化

国交省 ■ 港湾分科会

国土交通省は7日、交通政策審議会（国交相の諮問機関）の分科会で、大阪、堺、北、広島、下関の各港の港湾計画改訂を承認した。物流関係では、取り扱った機能の強化に加え、車両待機場の整備やICT（情報通信技術）によるトラックドライバーの労働時間短縮、港湾機能の集約による効率化などが盛り込まれた。また、2025年の大阪万博に向けた工事による渋滞悪化の対策として、大阪市港湾局が一部貨物の搬入を海路で行う方針を示した。（辻本亮平）

土砂搬入、海路で対応

大阪万博
関連工事

7日、港湾分科会（小林潔司分科会長、京都大学経営管理大学院教授）で、西日本4港の港湾計画改訂について審議。また、横浜、苫小牧、秋田、神戸、別府各港の港湾計画の一部変更も提示し、承認した。

大阪港では20年代後半を目標に、コンテナ取り扱いの効率化を進める。夢洲コンテナターミナルの用地不足を解消するため、ふ頭用地を拡張。更に、南港コンテナターミナル周辺でのコンテナ積載車の渋滞を抑制するため、収容能力1,000

台の車両待機場を整備する。併せて、コンテナ物流の生産性向上に向けてAI（人工知能）、港湾関連データ連携基盤などの活用を検討することも明記。搬出入・荷役作業を迅速化するとともに、周辺の物流施設とのシームレスな接続による、コンテナ物流全体の生産性向上を目指す。夢洲コンテナターミナルで先行的に検討し、咲洲にも展開したい考えだ。

また、大阪港に関しては、25年に夢洲で開催される大

阪万博関連の工事期間中、車両渋滞が悪化することへの懸念が委員から示された。これに対し、大阪市港湾局は、土砂などの搬入は陸路ではなく海路を使い、渋滞を抑制する考えを示した。また、万博期間中はコンテナ車両と一般車両の通行を分離させることも強調した。

堺、北港は公共ふ頭を再編し、地区ごとに機能を集約。20年代後半をメドに、汐見・汐見沖地区を中古車輸出に、助松地区はフェリー・RORO船貨物に、そ

の強化により、輸出コンテナ貨物の増加が見込まれる。一方、海田地区では海田大橋の桁下制限により、船舶の大型化への対応が困難。こうした背景を踏まえ、20年代末を目標に、船舶大型化に対応できる出島地区で外貿コンテナを、海田地区では内貿コンテナを主に取り扱うこととする。

一方、下関港は30年代前半までに、用地不足を解消したい考え。本港地区で用地造成を伴うふ頭再編を行い、国際フェリー・RORO船や水産品の物流

大阪万博に関連する工事で車両渋滞が悪化することへの懸念が委員から示される



機能を向上させる。

このほか、横浜港では新本牧ふ頭の集荷機能を強化するため、岸壁を800メートルから1千メートルに延伸。本牧ふ頭でも、国際フィーダー機能を高めるため内航コンテナ船用の岸壁を設け、滞船の解消につなげる。

また、苫小牧港では真古舞地区のバース不足解消

へ、公共ふ頭計画を新たに策定。秋田港は、飯島地区の公共ふ頭で大型洋上風車部材の荷役・輸送を行うため、岸壁の増深・延伸などを実施する。神戸港は荷さばき地不足の解消に向け、新たな用地造成を計画。別府港ではフェリーの大型化に対応するため、岸壁を増深・延伸する。

新規整備事業19年度

横浜港CT再編など審議

国土交通省は7日、交通政策審議会港湾分科会の事業評価部会（小林潔司部会長、京都大学経営管理大学院教授）で、2019年度の新規港湾整備事業について審議した。物流関係では横浜、苫小牧、伏木富山の各港の整備事業を取り上げた。

19年度の港湾整備に関する新規事業は、物流関係では①横浜港の国際海上コンテナターミナル（CT）再編②苫小牧港西地区真古舞

地区の国際物流ターミナル③伏木富山港新湊地区の中央ふ頭再編――の各整備事業が候補に挙がっている。横浜港では、31年度までを事業期間としてコンテナターミナルの再編を行う。大型船やコンテナ貨物の増加に対応し、基幹航路の維持・拡大を狙う。総事業費

は3100億円。

一方、苫小牧港では、22年度までにバース不足による滞船などの解消を図る。このため、西港区真古舞地区の岸壁や泊地、港湾施設用地、ふ頭用地など港湾施設を改良。総事業費は70億円で、このうち港湾整備事

業に65億円を充てる。

伏木富山港では船舶の大型化、取り扱い貨物増加への対応を進める。岸壁を深くするとともに、一部係留施設の廃止、貨物の集約、ふ頭用地の利用方法の見直しなどを図る。事業費は50億円。（辻本亮平）